

『生きることは学ぶこと・学ぶことは生きる喜び』

重度障害者・障害学習ネットワーク代表

飯野順子先生

25S2041 池町真夕子

(大学院修士一年生)

先日の講義では、大変感銘を受けました。先生の「生きることは学ぶことであり、学ぶことは生きる喜びである」というお考えは、まさに私自身の長年の学びへの姿勢と深く共鳴するものであり、改めてその本質に触れることができた喜びを感じております。

私自身、広義の意味で学ぶことが何よりも好きであり、その根底には、物事に対して疑問を抱くと、インターネットがない時代からとことん調べ上げずにはいられないという性分があります。振り返れば、日本の受験勉強が、単位期間あたりの暗記量を競う様相を呈していると感じており、それは私の考える「学び」とは一線を画すものでした。

王道の6-3-3-4教育課程から外れた私自身の歩みも、この考え方を育んだ一因かもしれません。主婦業の傍ら大学に編入し、海外赴任などの経験も経て6-3-5-2-2という特異な経歴を辿ってまいりました。団塊の世代ジュニアでありながら、幸いにも熾烈な受験競争の渦中から一線を画した位置におり、これがかえって、誰かと比較されることのない、純粋な知的好奇心の追求を可能にしたと省みております。まさに、自らの知的な欲求を満たすためだけに生きていると言っても過言ではありません。人間が思考し、深く探求する営みこそが、最も崇高な学びであると信じております。

もはや現代においては、AIが暗記という作業を担う時代です。学びの種はいつ何時もそこら中に転がっており、私たち人間は、考えること、問い続けることに集中できる、まさに良い時代になったと実感しています。

ただ、時に一人での探求は孤独を伴うもの。志を同じくする仲間との出会いを求め

これまでに年齢や立場を問わず国内外の大学院受験を試みてまいりました。合格・不合格様々な結果を経てまいりましたが、学びを深める環境が整わず、入学には至らないケースがほとんどでした。しかし、その一つ一つのご縁がなくとも、経験は私自身の確かな肥やしとなっております。米国大学院を受験した際のエッセイは英語で綴りましたが、思考の根幹は日本語と全く同様であり、表現に苦勞することはありませんでした。むしろ、現地の関係者には、その探求の姿勢を面白がっていただけたかと存じます。

このような私の学びの軌跡と、先生のお考えはまさしく一点で結ばれるものでした。特に、障害の有無に関わらず、全ての人が学びから得られる喜びを享受すべきでありその機会を制限することは決してあってはならないという先生のご指摘には、深く共感いたしました。そこに真っ先に気づき、具体的なテコ入れをなさっている先生の取り組みに、心から賛同と敬意を表します。

今後も、先生の学びに対する情熱が、より多くの人々に光を届けることを心より願っております。微力ながら、私も先生の活動を応援させていただきます。